

# MP木造接合部標準図 金物工法 ~プレッターSU 梁受金物~

Ver. 2.0

設：設計者判断・計算運用による  
社：社内試験データあり

・使用上の責任は全て使用者にあり、BXカネシンはいかなる責務も負いません。  
・中大規模プレカット技術協会標準図を参考に作成しております。設計図書には合わせてお使いください。  
・お気付きの点や社内試験結果の詳細は、BXカネシン(株) 特需営業部 MP課まで。

**BXカネシン株式会社**  
作成：特需営業部 MP課 / 連絡先：0120-10-6781

- ・製品のプレカット・施工・設計に関する詳細はBXカネシン株式会社HP記載の各種マニュアルをご確認ください。
- ・複数個使い等、社内試験・計算対応等、公的試験により確認されていない接合部の設計は事前相談において確認申請機関との協議の上、設計者判断によりお使いください。
- ・**社**：社内試験データあり **設**：設計者判断・計算運用による
- ・受注生産品となる金物に関しては事前に納期確認をお願いします。
- ・雨掛り等、外部に使用する場合には適切に防錆処理を施してください。

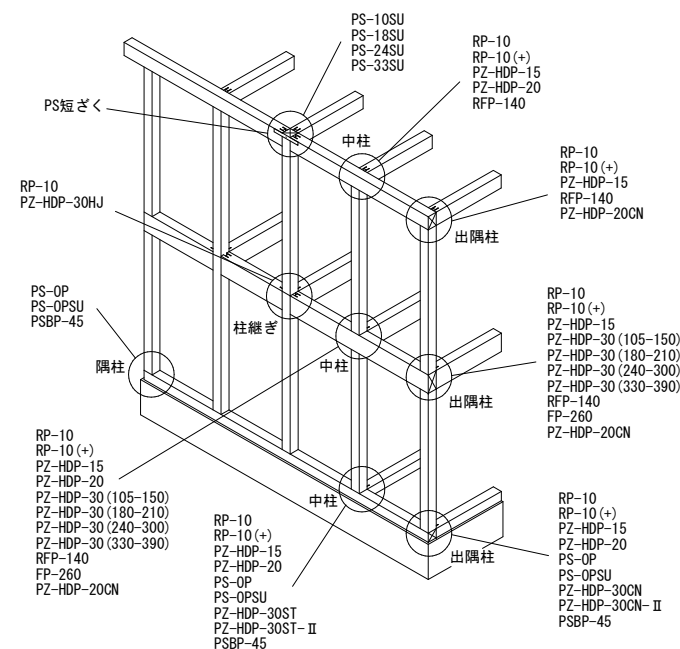
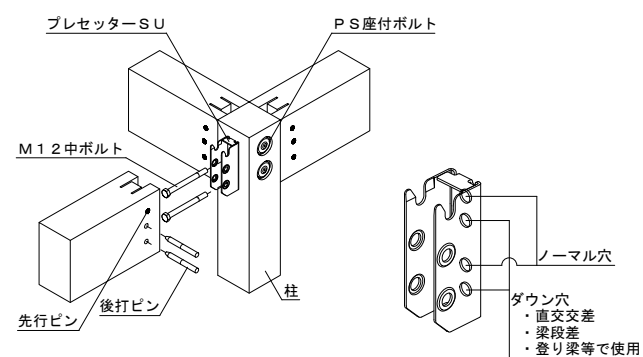


図1 キープラン

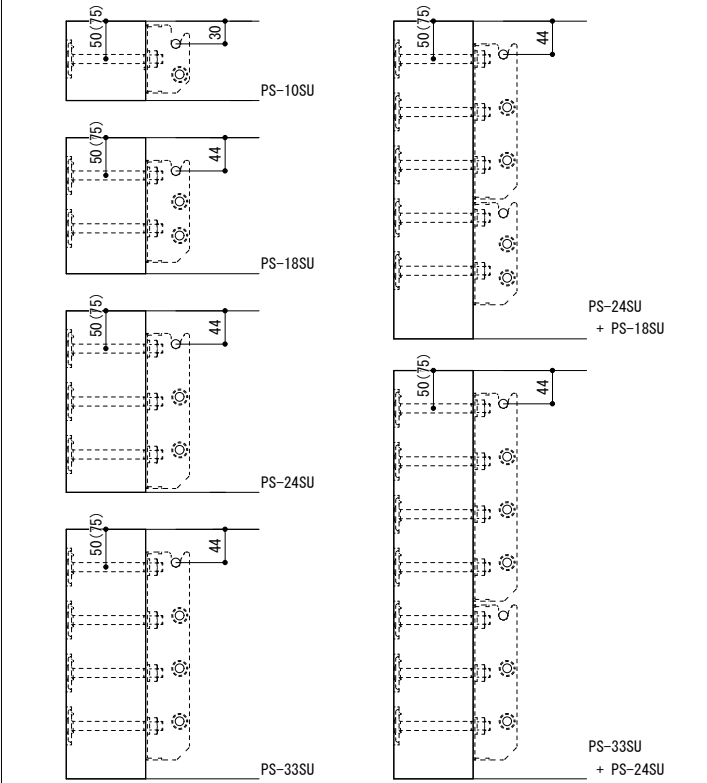
## A 柱-横架材接合金物・横架材-横架材：一般部・出隅部

### A-1 梁受金物 プレッターSU

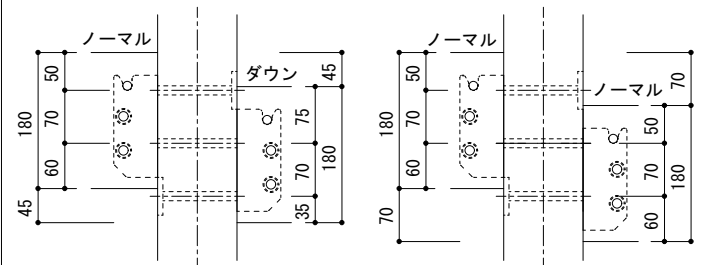
- ・製材を用いる場合はプレッタータイプMを使用する。尚、樹種は機械等級E70のSギ以上とする。
- ・平角柱のせい方向の穴あけはせん断抵抗する場合、別途指示による。



図A-1.1 梁受金物の直交部分

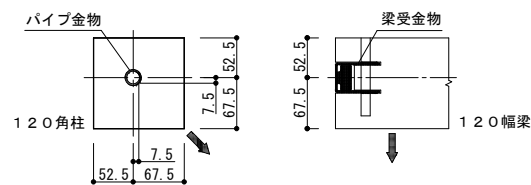


図A-1.2 PSの各種断面



図A-1.3 梁段差がある場合 S=1/10

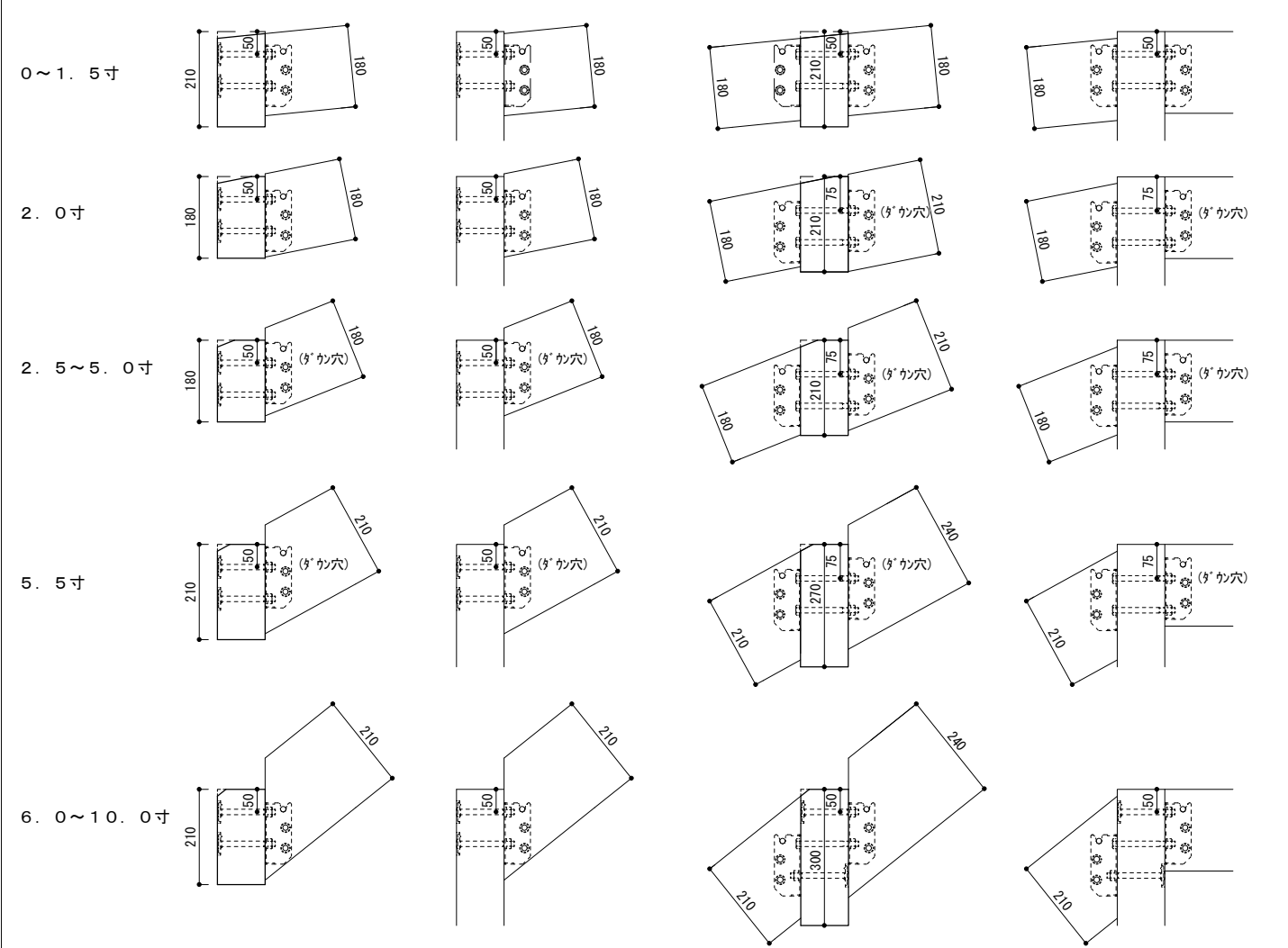
- ・芯ずれがある場合、梁受金物芯から梁側面まで52.5mm以上確保する。



図A-1.4 芯ずれへの対応 (口内部は最小寸法) S=1/10

### A-2 登り梁接合金物

- ・登り梁接合はプレッターSUとする。
- ・直交梁が登り梁より大きい場合、マニュアル記載の柱もたせの接合を参照する。
- ・勾配ごとの梁断面は図A-2.1参照とする。
- ・PS18-SU以外を使用する場合、設計者判断による。**設**
- ・ノーマル穴とダウン穴を使い分けることになるため、柱頭をホールダウンパイプ接合とする場合は、別途納まり検討とする。

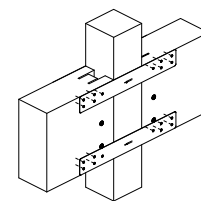


図A-2.1 登り梁接合 (PS-18SU/柱・直交梁勝ちの場合) S=1/15

### A-3 梁受金物の引張耐力が不足する場合

#### A-3.1 PS短ざく

- ・梁受金物の接合部引張耐力が不足する場合、PS短ざくを併用する。
- ・梁両側面の梁上端・下端につけることを原則とし、直交梁、梁段差、梁せい違いがある場合の納まりはマニュアル参照とする。

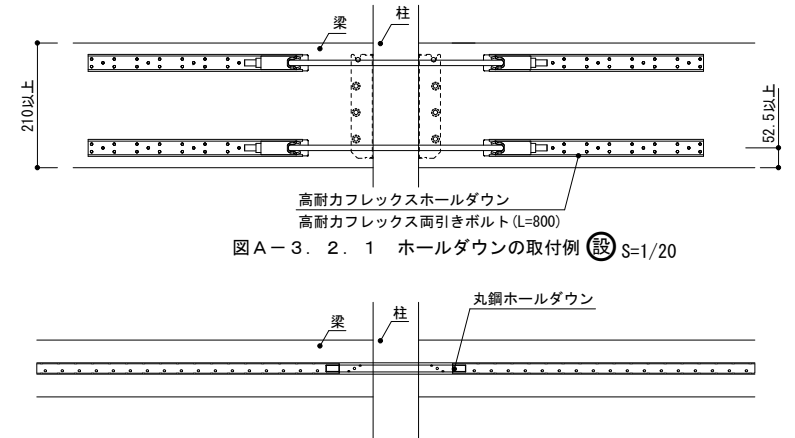


- ・継手方向の柱せいは120mmまでとする
- ・取付個数は4個を最大とする

図A-3.1.1 PS短ざくによる補強

#### A-3.2 ホールダウン金物梁使い

- ・上記以上に接合部耐力が不足する場合、高耐力フレックスホールダウンの2個使い、MPホールダウン、丸鋼ホールダウンにより引き抜き耐力を負担させる。



図A-3.2.1 ホールダウンの取付例 **設** S=1/20

図A-3.2.2 丸鋼ホールダウンの取付例 **設** S=1/20